

# 文 献 解 題

昭和戦前期プロレタリア文化運動資料集

1. 文献名：『昭和戦前期 プロレタリア文化運動資料集』（DVD 2 枚）
2. 編者：昭和戦前期プロレタリア文化運動資料研究会
3. 出版社：丸善雄松堂
4. 出版年月：2017 年 9 月

1920～40 年代に発行，作成，配布，発信されたプロレタリア文化運動・左翼演劇に関する，ピラ，チラシ，ニュース，檄文，パンフレット，ガリ版刷りの稀少雑誌，色鮮やかなミニポスターなど，多種多様な各種資料 2857 点をまとめてデジタル化，9 分類して検索と閲覧を可能にした，第一級の資料である。

昭和戦前期プロレタリア文化運動資料研究会のメンバーである浦西和彦氏所蔵資料にくわえ，市立小樽文学館所蔵（池田寿夫旧蔵）資料，法政大学大原社会問題研究所所蔵資料，札幌大学所蔵（松本克平旧蔵）資料から成るこの資料集だが，特徴として次の 3 点を強調しておきたい。

1 つは，これらの資料が，ということつまりは，プロレタリア文化運動自体が，「文学・演劇・映画・美術——ジャンルを横断する総合芸術運動」だという点である。文化運動をジャンルで分節することなく集成した本資料は，利用者の立場からすると，多くの専門領域にとって有用だといえる。逆に，1 つの興味からこの本資料にふれば，同時代に展開されたさまざまなネットワークが，文字通りジャンル横断的に立ち上がってくる，というわけだ。

もう 1 つは，エリアの広がりである。プロレタリア文化運動がプロレタリアートとの関わりの中で生み出されていく中で，「地方」は重要なエリアである。さらに，プロレタリア文化運動は，諸外国からの影響の中で展開されたものである。してみれば，本資料は国内／外にわたって，視野をひらく手がかりともなる。

最後に，昭和戦前期の文化・芸術・歴史は，戦争の「負」の面ゆえに研究対象として忌避されてきたきらいが，いまだ払拭されていないと思われるが，しかし，今日からみても意義深い事象に満ちている。その解明のためにも，本資料は有意義なものだといえる。

（文責 松本和也）

1. 文献名：『絵葉書で見る近代朝鮮』①～⑦
2. 編者：浦川和也（企画・監修：崔吉城）
3. 出版社：民俗苑
4. 出版年月：2017年5月

7分冊になっている本書は、「名護屋城博物館」所蔵の朝鮮半島絵葉書を全点掲載した資料集である。本書は、絵葉書研究はもとより、韓国に関する学問の基礎資料の1つとして学術的価値が高い。日韓両言語で編まれているため、韓国に興味を持っている人は韓国語の表記も参考にしながらページがめくれる。看板やポスターなどから当時の書き方や表現をうかがい知ることができる。

7冊は下記のように分類されている。北朝鮮の地域を対象としている④は貴重な資料である。

- ①記念葉書等
- ②名所葉書：京城1
- ③名所葉書：京城2・京畿・忠清・江原道地域
- ④名所葉書：平壤・黄海・平安・咸鏡道地域
- ⑤名所葉書：釜山・慶尚・全羅道地域
- ⑥風俗葉書
- ⑦修学葉書・その他の葉書

（文責 尹亭仁）